

## 2 歴史的環境

東赤土遺跡のある豊川市八幡町付近一帯は、後期旧石器時代より現在に至るまで人々の生活が営まれた場所である。特に奈良・平安時代においては三河国府・国分二寺が置かれるなど、三河国の古代史を紐解く上で重要な地域である。以下では、東赤土遺跡周辺の歴史的環境について、時代ごとに概説を行う。(挿図3参照)

### 旧石器時代・縄文時代

西古瀬川流域の台地には後期旧石器時代の石器を出土する遺跡が点在し、駒場遺跡(1)・天間遺跡(2)・六光寺遺跡(16)・下六光寺遺跡(15)・東赤土遺跡(14)・国分寺北遺跡(11)・三河国分寺跡(12)・三河国分尼寺跡(10)・白鳥遺跡(23)などがあげられる。中でも駒場遺跡では、礫群などの生活址が県内で初めて検出され、多量の石器が出土した。縄文時代においては、国分寺北遺跡・下六光寺遺跡・白鳥遺跡・東赤土遺跡・船山第1号墳周辺で早期の煙道付炉穴が検出され、駒場遺跡・天間遺跡では草創期の有舌尖頭器や早期の押型文土器が出土している。白鳥台地の西縁に位置する葉善寺遺跡(21)では中期から後期の土器を伴う貝塚が検出されており、白鳥遺跡でも中期の土器が出土し、是区田遺跡(29)では後晩期の土器が採集されている。

### 弥生時代

天間遺跡・白鳥遺跡で前期の条痕文系土器の土器棺墓が検出されている。中期では天間遺跡で竪穴建物、国分寺跡では壺棺が、白鳥遺跡では方形周溝墓が検出されており、船原遺跡(28)でも当該期の土器が出土している。後期では国分寺跡で竪穴建物が、国分寺北遺跡で古墳時代初頭にかけての方形周溝墓が検出され、両遺跡は居住域と墓域として展開する一体の遺跡と考えられる。下六光寺遺跡は後期から古墳時代初頭にかけての集落遺跡であり、船原遺跡・是区田遺跡でも当該期の土器が出土している。

### 古墳時代

三河地方最大級の前方後円墳である船山第1号墳(19)が5世紀後半に白鳥台地上に築かれ、隣接した北側には方墳とされる船山第2号墳(18)がかつて存在した。船山古墳(27)は後期の前方後円墳で、国府第1号墳(25)では人物埴輪が出土している。また後期の円墳としては赤塚山第1号墳(5)・赤塚山東池古墳(4)・久保古墳(22)などがある。集落跡の調査例としては、駒場遺跡(5世紀末から6世紀中頃)、天間遺跡(6世紀中頃から7世紀後半)、六光寺遺跡(6世紀後半から7世紀中頃)などがある。

### 奈良・平安時代

東赤土遺跡の周辺地域は古代三河国の中心地であり、それに関係する遺跡も多い。国分寺跡の北東約300mには三河国分尼寺跡があり、史跡公園整備に伴う発掘調査により遺跡の全体像を把握するに至っている。また国分寺跡に北接する国分寺北遺跡では、国分寺の造営や経営に関する遺構が多数検出されている。赤塚山古窯(6)は国分寺の修造用瓦を生産した瓦窯で9～10世紀代の瓦窯4基以上と工房跡が検出されている。その他に平尾古窯(3)・大宝山古窯(17)も国分二寺所用瓦の生産窯と推定されるが滅失しており、その詳細は不明である。白鳥遺跡は総面積約25haに及ぶ遺跡であり、平成3年度から9年度にかけて実施された三河国府跡確認調査で三河総社及び曹源寺付近に律令期の国庁が存在したことが判明した。また白鳥遺跡では、近年実施されている豊川西部土地区画整理事業における事前調査でも国府に関連すると推定される建物跡等の遺構が多く検出されている。山ノ入遺跡(26)・伊知多神社遺跡(7)は白鳳時代末から奈良時代初頭頃に創建された古代寺院遺跡と推定される。

## 中世

東赤土遺跡の南に展開する国分寺北遺跡は、古代においては国分寺の造営や経営に関わった遺跡と考えられるが、国分寺衰退後の鎌倉時代には集落遺跡に変質し、多数の遺構が検出されている。また国分寺跡においても鎌倉時代の竪穴遺構・掘立柱建物・井戸などの遺構が検出され、北東の裏山には中世墓であるさんまい山古墳（9）がある。野口城跡（8）は『三河国二葉松』『三河国宝飯郡誌』などによれば、細川民部大輔教春・板倉主水・印宮甚蔵らが城主とされるが、築城・廃絶時期等については詳らかでない。国分寺跡に西接する八幡宮（13）は、白鳳時代頃に宇佐八幡宮より勧請されたと伝えられ、国重要文化財に指定されている本殿は文明9（1477）年の建立である。戦国期には武家からの崇敬が厚く、当地方の豪族である牧野氏・今川義元・徳川家康からの安堵状が伝世されている。国分寺北遺跡においては文献等に記される八幡砦の跡と考えられる城館跡が確認されており、また国分寺跡においても塔基壇を利用して防御用の土塁が構築されたことが判明している。

## 近世

東赤土遺跡周辺は古くより交通の要衝の地でもあり、西方1.5km付近には東海道が、南方0.8km付近には脇往還の通称姫街道（本坂街道）が通っており、御油宿は東海道35番目の宿場町として栄えた。東海道を御油宿より赤坂方面へと向かうと、延長約600mにわたる御油のマツ並木（24、国指定天然記念物）があり、今もなお当時の街道風情を保っている。芭蕉句碑（20）は東三河に残るものとしては最古のもので、国府の米林下才二家にあった芭蕉の真跡を元にして建立された句碑である。



挿図3 東赤土遺跡周辺の文化財

1 駒場遺跡、2 天間遺跡、3 平尾古窯、4 赤塚山東池古墳、5 赤塚山第1号墳、6 赤塚山古窯、7 伊知多神社遺跡、8 野口城跡  
9 さんまい山古墳、10 三河国分寺跡、11 国分寺北遺跡、12 三河国分寺跡、13 八幡宮、14 東赤土遺跡、15 下六光寺遺跡  
16 六光寺遺跡、17 大宝山古窯、18 船山第2号墳、19 船山第1号墳、20 芭蕉句碑、21 葉善寺遺跡、22 久保古墳、23 白鳥遺跡  
(三河国府跡)、24 御油のマツ並木、25 国府第1号墳、26 山ノ入遺跡、27 船山古墳、28 船原遺跡、29 は区田遺跡

# 東赤土遺跡

豊川西部土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月31日発行

編集・発行 豊川市教育委員会  
〒441-0292 愛知県豊川市赤坂町松本250番地  
TEL：0533-88-8035 FAX：0533-88-8038  
印刷・製本 共和印刷株式会社